SANKAIDO ARCHITECTURE & ENVIRONMENT
DESIGN STUDIO

https://sankaido.com

株式会社 参會堂

HEAD OFFICE
東京 自由が丘

〒152-0031
東京都目黒区中根1-25-23

TEL 03-5726-1120
FAX 03-5726-1135

200610r4

Custom made lifetime house, whitch has never existed in the world

OUR WORKS 01

2008-2009

SANKAIDO ARCHITECTURE & ENVIRONMENT
DESIGN STUDIO

写真右
カナダ製作ティンバーフレーム

写真左より
ドイツ製ウィンドウ
イタリア製システムキッチン
イタリア製ガレージドア
イタリア製キャビネット・タイル

EUROPEANISM

本物を使わなければ、本物の家は作れない。

物にはそれぞれの存在感があり、それに相応しいオーラを纏っています。
調理人が素材を厳選するように、一つずつ吟味された素材たちは、建物に於いても
それぞれの質感と、その組み合わせによって実に魅力的に見えるのです。
参會堂には、憧れをそのままカタチにすることができる素材と、それを見極め、生かすこ
とができる技術とが備わっています。
ヨーロッパを中心とした、住むことへの豊かさを追求した理想的な素材を使いながら、
日本の気候風土に合わせた設計の中に組み合わせてゆくのが参會堂の家です。

何かに似せた模造品ではなく、そのもの自体に価値を持つ本物の素材を使ってしか
作ることができない家を、最高の組み合わせでご提供する ————

参會堂にしか作ることができない、本物の家の形と、住まいの本質とがここにあります。

N.HOUSE PROJECT

HYOGO 2008

SPEC.

構造・工法	木造枠組壁工法(2x6)+ティンバーフレーム 地上2階建
建築面積	延床面積 96.03坪　+ 車庫面積 55.05坪
設備	全館空調システム ヒートポンプ式電気温水器（エコキュート） アメリカ製暖炉・薪ストーブ　ほか
素材	アメリカ製外部扉・金物 ドイツ製ウィンドウ カナダ製内部扉 イタリア製ガレージ扉 イタリア製システムキッチン カナダ製作ティンバーフレーム イタリア製タイル フランス製屋根瓦 無垢材フローリング

名車の住む家

人生の傍らには、常に車との時間があった。
これまでも様々な車を所有し、クルマと共に過ごす暮らしを楽しんできたNさん。
ひとつの名車を手に入れたことをきっかけとして、車と遊びを中心とした新しい家の計画を立てることになりました。
大胆に3つのガレージを建物の各部へと配置し、その間に居住空間を設けて生活の中に常に車の姿があるシーンを作り上げました。
クラシックな自動車も多いことから、デザインはカナダのティンバーフレームを建物に組み込み、木造の旧い厩舎のイメージの中に、愛車が並ぶシーンを演出しています。
クラブハウスとしても機能するこの家は、休暇のシーズンごとに趣味を同じくする仲間が集い、クルマ談議に花を咲かせています。

左頁左:
装飾をかねた構造の美しいティンバーフレームが映えるエントランスホール。吹き抜けの最上部にはアンティークのステンドグラスをはめ込んだ装飾窓が配されている。

左頁右上下:
車を飾るガレージと、車のあるラウンジとして作られたガレージ2つ。趣味でクルマを所有することの奥深さを2つの異なるガレージのあり方で感じることができる。

右・下:
暖炉を中心とした大きな吹き抜けのあるリビングと、その内部に作られたダイニングルーム。
暖炉が両面使用できるようになっており、表と裏側でそれぞれ違ったテイストの装飾が施されている。

S.HOUSE PROJECT

TOKYO 2008

SPEC.

構造・工法	壁式鉄筋コンクリート造（RC造） 地上3階建
建築面積	延床面積 108.83坪 (うち車庫面積 25.40坪)
設備	個別換気・個別空調(マルチエアコン) 電熱パネル式床暖房 ガス給湯機 ホームエレベーター　ほか
素材	アメリカ製外部扉・金物 ドイツ製ウィンドウ アメリカ製内部扉 イタリア製ガレージ扉 イタリア製システムキッチン イタリア製タイル スペイン製屋根瓦 特注アイアン門扉・螺旋階段 無垢材フローリング

イタリアの街角で

お仕事柄、ヨーロッパの各地を廻っているSさん。
自宅を建てるにあたって参會堂を選んだのは、自身の目で見てきた現地の建物と同じ雰囲気がするからだとのこと。デザインにあたっては現地での写真なども見ながら、どの辺りの町並みの雰囲気に仕上げてゆくかで、何度も議論を重ねました。
結局、イタリアのとある街角の建物をモチーフに、参會堂の方でアレンジを加えたデザインで作り上げられたこの家は、イタリアを始め、ヨーロッパの素材をちりばめながら、日本の気候風土にあった理想的な建物に仕上がりました。

左頁左:
ヨーロッパの伝統的な建築バランスに忠実に立てられた外観は、本物の素材を使っているからこその、独特の雰囲気を醸し出している。外国の方が見られて故郷の風景を思い出すと言われたこともあるとか。

左頁下:
重厚なアーチのどっしりとした存在感と、シンメトリカルな配置も、ちょっとした配置のバランスでそれらしく見えるかどうかが決まる。

上:
階段のホールに面したちょっとした接客スペース。
さりげなく、プライベートな空間とゾーンを分けている。
コンパクトな螺旋階段もヨーロッパの都市住宅にはよく見られるスタイル。

右上・右下:
浴槽や、エレベーターなどは日本の最新機器を使用。
キッチンはイタリアのシステムキッチン。クラシックな空間に、あえてモダンなキッチンが入っているのも、ヨーロッパらしい雰囲気。

N.RESORT PROJECT

FUKUSHIMA 2009

SPEC.

構造・工法	木造枠組壁工法(2x6) 地上2階建
建築面積	延床面積 214.72坪　(うち車庫面積 21.49坪)
設備	全館空調システム ヒートポンプ式電気温水器(エコキュート) ガス温水パネル式床暖房　ほか
素材	アメリカ製外部扉・金物 ドイツ製ウィンドウ アメリカ製内部扉 イタリア製ガレージ扉 イタリア製システムキッチン イタリア製タイル スペイン製屋根瓦 特注アイアン装飾・螺旋階段 無垢材フローリング

リゾートに住む

旅行に行くのもいいけど、家そのものがリゾートだったらもっといい。
仕事で忙しく、旅行をする時間が取れないというNさんのお話から、この家が生まれました。家の機能を複数の部屋に分散させて、その各部屋に、非日常を感じさせる、それぞれ違ったデザインを施しつつ、全体をひとつのリゾートホテルのようにまとめた計画です。
内部に2つの中庭を持ち、部屋の中から見える外の風景にもこだわりました。様々な場所に見せ場を持たせて、家の中を歩くだけでも本当にちょっとした旅行気分が味わえます。

左頁左:
建物の中央に位置する、応接室をかねた温室は、2つの中庭に囲まれて、窓の外の風景も外界とは隔絶された完全なリゾートの雰囲気。

左頁上:
メインのリビングとファミリールーム。緩やかに区切られたそれぞれのコーナーにシッティングスペースをとり、さながらホテルのロビーのような印象の空間となっている。

下:
ゲストルームとして離れに設けられた部屋。
和室を併設し、老舗の旅館のようなイメージで作られている。和洋折衷のデザインと、大胆に区切られた半円形の障子が空間のアクセントとなっている。

右:
夜の中庭。子供の遊び場となったり、ガーデンダイニングとして使ったり、はたまた隣接するガレージからクルマを入れて洗車などをすることもできる、非常に多目的な空間となっている。現在はガーデニングに凝っていて、バラを育てているそう。